

『リスクマネジメントの基礎理論と事例』

亀井克之著(関西大学出版部)

2011年3月、関西大学社会安全学部教授(リスクマネジメント論、保険論担当)の亀井

克之氏が関西大学出版部から「リスクマネジメントの基礎理論と事例」(Basic Theory of Risk Management and Case)を刊行した。



リスクマネジメントは、保険を

中心とするファイナンス的アプローチと安全上のアプローチの二つの流れが中心になって発達してきた。本書は、さらに第三、第四の流れとして経営学的なアプローチ、防災・減災科学的なアプローチが存在すると



保険関連 新刊案内

リスクマネジメント委員会などの具体的な組織体制の構築やISO31000などリスクマネジメントに関する国際規格、

大規模災害を想定したBCP(事業継続計画)の策定、CSR(企業の社会的責任)や内部統制からのアプローチ、ワークライフ・バランスやメンタルヘルス・ケア、企業・行政・地域社会が連携して対応するソーシャル・リスクマネジメントの考え方や事例、コラムを加えて解説している上、最近の動向を幅広く盛り込んでいる。

補助金基盤研究の成果の一部として出版。今年5月15日に開催した日本ソーシャルリスクマネジメント学会の会員総会で、年間を通じてリスクマネジメントに関する研究で最優秀図書出版に贈られる10年度同学会賞に推薦され決定した。

主な内容は次のとおり。
 ▼序章：ISO31000とソーシャル・リスクマネジメント
 ▼第1部：リスクとリスクマネジメント
 ▼第2部：リスクマネジメントの構造とリスク・アセスメント
 ▼第3部：リスク・リポートメント
 ▼第4部：コーディネーションとコミュニケーション
 ▼第5部：危機管理とリーダーシップ
 ▼第6部：ソーシャル・リスクマネジメント
 ▼終章：Information Modelからソーシャル・リスクマネジメントへ
 (A5判・197頁、定価1900円+税)

経営学的アプローチからRIMを総論

▼第2部：リスクマネジメント